論文概要

氏　　名：磯野　巧

論文題目：Structural Change of Tourist Destinations through Developing the Geopark Movement in Australia

（オーストラリアにおけるジオパーク運動の進展にともなう観光地域の構造変化）

論文概要：

本研究ではオーストラリアのカナウィンカ地域を対象として，ジオパーク運動が展開する中で，人，資源（ジオサイト），LGA（自治体）がジオパークとどのようにかかわってきたのかを動態的に分析し，ジオパーク運動の進展にともない地域が観光地域としていかなる構造変化を遂げてきたのかを明らかにした．

オーストラリアは国内の地形・地質学者や連邦政府によって，ジオサイトが大地の遺産として保全・評価の対象となっており，ジオパーク運動を推進するための基盤が早期より構築されてきた．カナウィンカ地域では，これらのジオサイトを中心とする火山景観を活かした広域的な観光振興を展開しており，2000 年代以降，この活動はジオパークとしての活動にシフトした．カナウィンカ地域では広域的な地域間連携という条件下においても，多様なアクター間の合意形成を対面接触で行い，ガバナンスによる合意形成を通してジオパーク運動を展開してきた．

カナウィンカ地域はサウスオーストラリア・ビクトリア両州内において比較的優位な観光地域に属するものの，カナウィンカ地域に含まれる LGA は主要観光周遊ルートから外れた場所に位置している．また，外国人観光客の拠点となる両州都からの交通環境に恵まれない条件下に置かれたナショナルレベルの観光地域である．それゆえ，カナウィンカ地域内の LGA は観光地域としての条件不利性を共通課題として認識しており，その克服を目的にジオパーク運営に対して財政支援を行っている．

カナウィンカ地域には 56 ものジオサイトが点在しており，地形・地質学的特性に基づいて５地区に区分されている．その中で，インタープリテーション機能の充実した地区では，ジオサイトを巡る周遊型の観光地域が形成されており，この地区に含まれる LGA は，カナウィンカ地域が国内版ジオパークとして再編された後も財政支援を継続して行っている．その理由としては，①ジオパーク運動の推進が LGA の観光振興に直結するため，ないしは②観光戦略の独自性発揮を目的にジオパーク運動を次席的な観光戦略として位置づけていることが指摘できる．

ジオパーク運動の進展にともなうカナウィンカ地域の構造変化は，対面接触を重視したガバナンスによる組織運営の形成，ジオサイトの点的利用から線的，面的利用への拡大，ジオパーク運動に対する LGA のまなざしの変化，これら３つの側面によってもたらされていることが明らかとなった．そして，ジオパーク運動を介した AT 型の観光地域は，既存および新規のインタープリテーション機能の組み合わせといった資源の

Wise Use を通した，「学ぶ観光」が実践される場として形成されていた．

本研究が検討してきたジオパークと地域との関係は，ジオパーク運動ひいては AT を導入する地域全般にも共通する部分を有している．地域に埋没する資源を観光資源として活用するためには，資源をどのように発掘し，それを発信するための「組織」が必要となる．観光資源としてのポテンシャルを秘める地域資源は私有地に存在するものも多数あり，それらを観光活用するには所有者とのコミュニケーションが求められるため，所有者の資源に対する認知度を把握し，所有者の意向を汲み取りながら観光活用していくことが必要であろう．そのためには，組織と所有者間の Face to Face の合意形成を行い，より確実な資源の Wise Use を実現することが必要である．また，地域資源を観光活用するにあたり，本研究ではインタープリテーション機能の重要性が再確認された．先述の通り，活用されきれていない資源の多くは「資源価値の認識不足」が根底にあり，「資源価値を確実にわかりやすく観光客に伝えること」ではじめて観光資源として活用できる．それゆえ，火山博物館のようなインタープリテーション機能を有する施設を充実させることが不可欠であり，さらには住民による自然ガイド活動を通して「学ぶ観光」を実現させ，ジオパークと観光客の接触を介した「交流による価値の創造」を具現化させることも，持続可能な観光のあり方を考えるうえで重要となる視座となろう．

（備考）

論文題目が外国語の場合は、日本語で訳文を（　　）を付して記入すること。